

コンニャク被覆作物の種類、播種量

福島県農業試験場こんにゃく試験地

平成14年度福島県農業試験場試験成績概要

1 部門名

特用作物ーコンニャクーその他

分類コード 06ー02ー99000000

2 担当者

菊池 正・齊藤研二

3 要旨

コンニャク栽培では敷きわらの代わりや作業省力化を目的に、座死現象を利用した大麦の被覆栽培（散播）が行われている。しかし、現在、利用されている「べんけいむぎ」、「ハマユタカ」の種子は入手しにくくなるため、「あかぎおおだま」の2年生栽培において、「べんけいむぎ」、「ハマユタカ」を対照品種として、代替えとなる被覆作物及び播種量を明らかにした。

- (1) 「てまいらず」(大麦)については、座死時期は対照品種よりやや遅い8月3半旬であった。草高があり生育初期にコンニャクの小葉にからみつくものが一部に見られ、コンニャクの球茎肥大・収量への影響が見られた。
- (2) 「てまいらず2」(大麦)については、座死時期は対照品種よりやや遅い8月3半旬であった。播種量1.0kg/aでは生育初期にコンニャクの小葉にからみつくものが一部に見られ、コンニャクの球茎肥大・収量への影響が見られたが、播種量0.5kg/aでは「べんけいむぎ」とほぼ同等のコンニャクの肥大倍率、球茎収量となった。
- (3) 「ファイバースノウ」(大麦)については、座死時期は対照品種と同時期の8月2半旬であった。播種量1.0kg/aでは生育初期にコンニャクの小葉にからみつくものが一部に見られ、コンニャクの球茎肥大・収量への影響が見られたが、播種量0.5kg/aでは「べんけいむぎ」とほぼ同等のコンニャクの肥大倍率、球茎収量となった。
- (4) 以上から、あかぎおおだま2年生では、「ファイバースノウ」の播種量0.5kg/a、「てまいらず2」の同0.5kg/aが利用可能と考えられた。

4 その他の資料等

特になし